TIGER MFG.CO.,LTD.
SINCE 1951

タイガー 爆音機 ジェットバング

商品コード 01001015000/型式：TJB-5　　取扱説明書

※ガスボンベ、アルカリ乾電池単一形は別途ご準備ください

1. 使用上のご注意 P.1/P.2
2. 梱包内容 P.3
3. 設置図・ガスボンベの取り扱いについて P.4
4. 設置と組立て P.5 ～ P.7
5. プリント基板 P.8
6. 操作方法・日常点検 P.9 ～ P11
7.長期間使用しない場合・オプション（別売）補修用性能部品の保有期間 P.12
8. 故障かな?と思ったら・・・ P.13/P.14
仕様・能力 裏表紙

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます
この説明書にはタイガー爆音機「ジェットバング」の使い方がまとめられています
内容を理解した上で、正しくご使用ください　お読みになった後は大切に保管してください
尚、本仕様および外観は製品改良のため予告なく変更する場合ありますのでご了承ください

本製品の関連情報はホームページをご覧ください
〈http://www.tiger-mfg.co.jp〉

1 使用上のご注意

●本機の設置・ご使用の前によくお読みの上、正しくご使用ください
ここに表示した使用上の注意は製品を安全に正しくお使いいただき、ご使用になる方や周囲の方への危害や損害を未然に防ぐためのものです
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください　またご使用に関しては法律及び条令を守り正しくお使いください

●表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し説明しています

⚠危険　⚠警告　⚠注意

●してはいけない行為としなければならない行為に区分しています

してはいけない行為を示しています。

しなければならない行為を示しています。

⚠危険　誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷などを負う可能性が切迫して生じることが想定される内容です。

雷が発生しているときは、本機に近づかない　また設置中の場合は速やかに設置を中断し、本機から離れる
落雷による感電の原因

心疾患をお持ちの方は本機には絶対に触れない
ペースメーカーや医療機器等の作動に悪影響を及ぼす原因

⚠警告　誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

本機の 5m以内では火気の使用を避け、農作物や樹木などの可燃物を置かない
火災の原因

使用中はできるだけ本機に近づかず、爆音筒を覗き込んだり、耳を近づける行為を行わない
失聴・難聴・やけどの原因

修理技術者以外は本機の分解・修理・改造を行わない　故障・破損した場合は使用せず、販売店にご相談ください
異常動作の原因

予想以上の爆音が発生する場合があるため、音が反響しやすい建物や壁の近くで使用しない
失聴・難聴の原因

心疾患をお持ちの方は本機には絶対に近づかない
ペースメーカーや医療機器等の作動に悪影響を及ぼす原因

傾斜地・砂地・沼地など不安定な場所では設置しない
本機の転倒による火災の原因

本機を操作したり、やむを得ず使用中に近づく場合は不意の爆音に備え、必ず耳栓を装着する
失聴・難聴の原因

本機を停止させるときはコントローラのスイッチを「切」にし、ガスボンベの元栓も締める
（元栓を締めた後でも本機が動作していると 1 ～ 2 回爆音を発することがあります　十分にご注意ください）

移動や修理点検などで本機に近づく場合は必ず本機を停止させ、ガスボンベの元栓を締める
失聴・難聴の原因

他の方が不用意に近づかないよう、よく見える場所に「危険表示」をして注意喚起をする

使用上のご注意 1

⚠注意 誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり、物的障害の発生が想定される内容です。
（状況によっては、深刻な危険に結びつく可能性もあります。必ず守ってください。）

禁止 風が強い時（風速 6m以上）は本機が転倒・破損する場合があるため使用を中止する
火災・やけどの原因

禁止 本機を落としたり、ぶつけたりしない　また万が一破損した場合は使用しない
火災・ケガ・感電・ガス漏れの原因

禁止 使用中や使用直後は爆音筒および混合管などが高温になるためむやみに触らない
やけどの原因

禁止 リード線（高圧）やゴム管などを踏んだり、重たいものを乗せたり傷つけたりしない
火災・感電・故障・ガス漏れの原因

ぬれ手禁止 濡れた手で電子コントローラなどの電子部品を操作したり、触れたりしない
故障・感電の原因

禁止 民家の近くや公道の近くで使用しない
目安として民家から 350m以上、公道から 100m以上離し、筒先を民家に向けない
（自治体の指示や条例がある場合はそれに従っていただき、近隣の方の迷惑にならないようにご配慮ください）

禁止 雨量の多いときに水没するおそれがある場所・湿気の多い場所では使用しない
電子コントローラの故障の原因

本機やガスボンベが転倒しないよう、不燃性の杭などでしっかりと固定する
事故や火災の原因

消耗部品などはタイガー純正品を使用する
事故や故障の原因

設置後は必ず 1 日 1 回点検をし、各所の劣化や、ネジの緩みがないか安全確認をする
万が一、ガス漏れ音やガス臭さを感じた場合は直ちに使用を中断する
火災や事故の原因

早朝・夜間の使用は周囲の迷惑になるため、なるべく使用を避ける
また使用する自治体の騒音に関する指示や条例に従い、使用する

ガスボンベは高温になると安全のため安全弁が作動し、内部のガスを一定量放出することがあるため
ガスボンベが高温にならないようにする
火災の原因

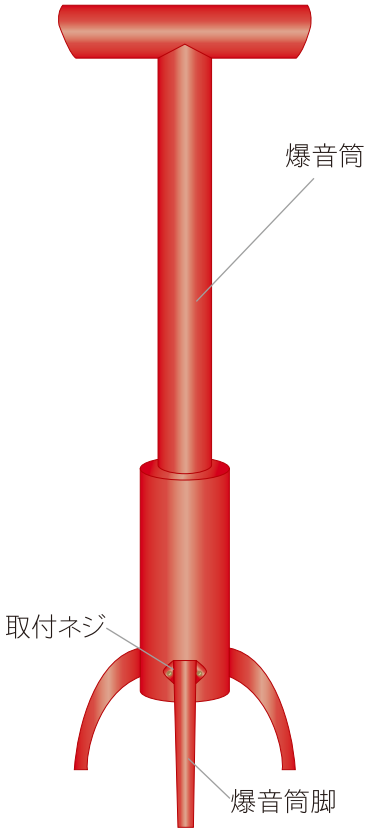
本機やガスボンベへの漏電を防ぐために必ず説明書どおりにアースをとる
故障・火災・感電の原因

他の方に譲渡や貸与する場合は取扱説明書などの注意事項を徹底させる

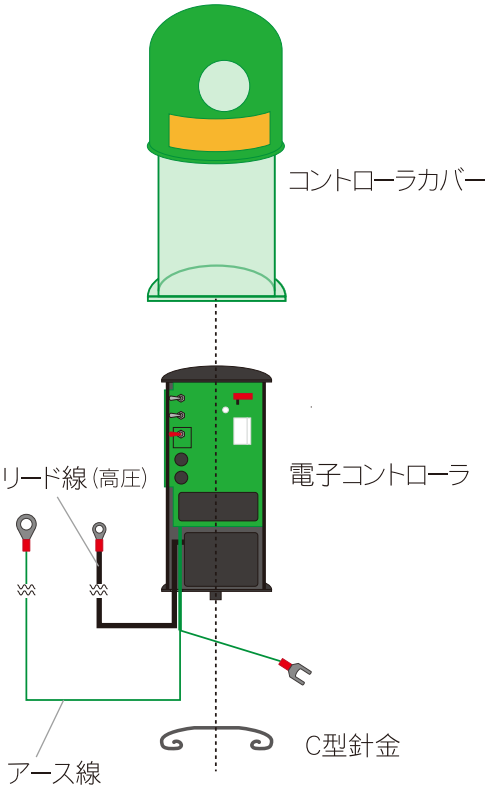
爆風を受ける場所では耳栓をしていてもむやみに近づかない
失聴・難聴の原因

■ 梱包内容

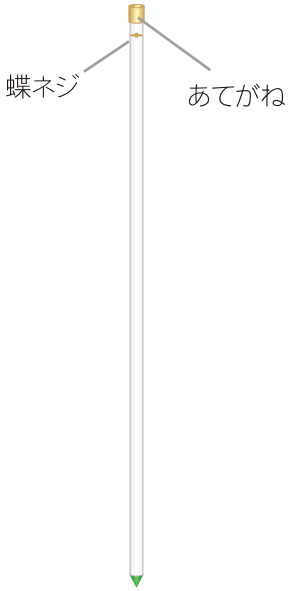
爆音筒完備



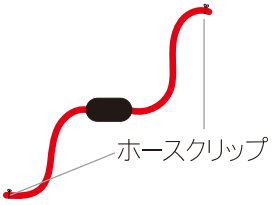
5型電子コントローラ完備



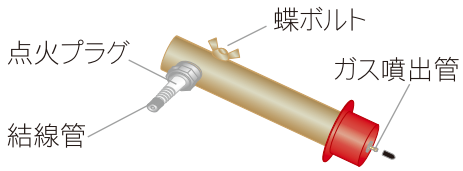
コントロールボックス脚



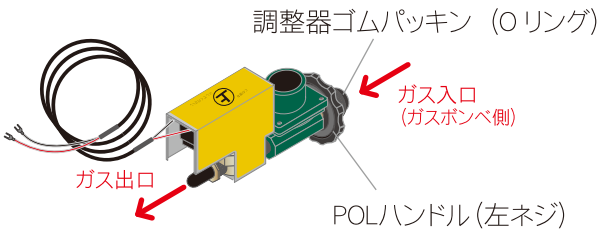
ゴム管ガス溜まり付(ゴム管)



混合管完備(混合管)



5型調整器電磁弁バルブ完備4(調整器)



その他の付属品

ドライバー

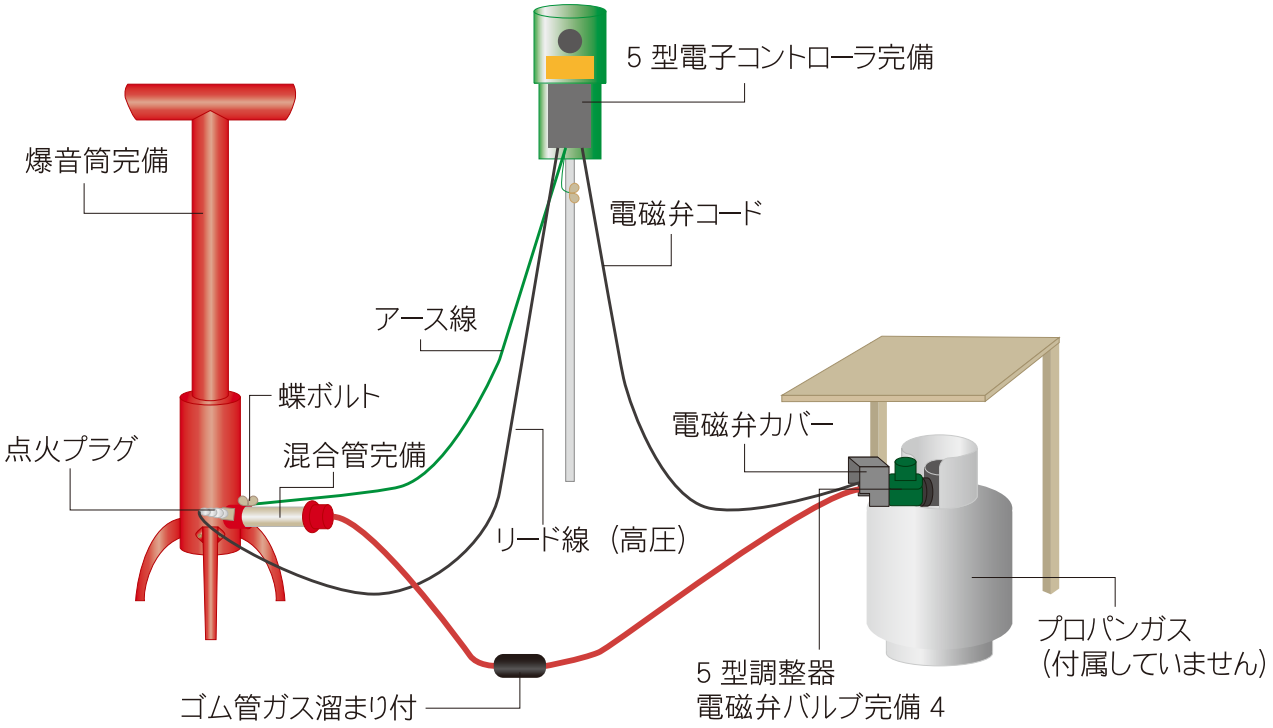
危険表示板 2 枚

耳栓 1 セット

取扱説明書

設置図・ガスボンベの取り扱いについて 3

■ 設置図 (詳しい組み立て方は P5 ～ P7)

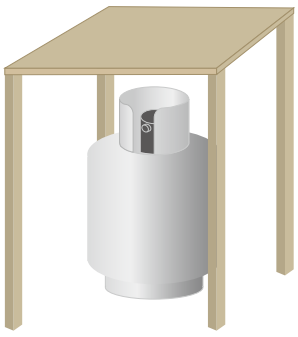


■ ガスボンベの取扱いについて

○本機を設置する際はガスボンベが高温にならないように
　直射日光を避け、日陰で風通しの良い場所に設置してください

○転倒・破損しないようご注意ください

○バルブ開閉は静かにおこなってください



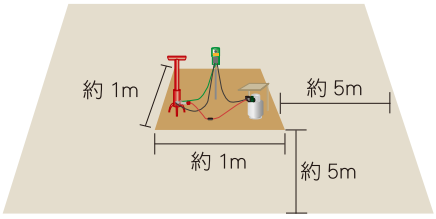
※ガスボンベは温度が上がり過ぎると、安全のために
　安全弁が作動して内部のガスを一定量放出することがあります

　火災の原因になる可能性があります
　高温にならないよう十分にご注意ください

■ 設置と組み立て

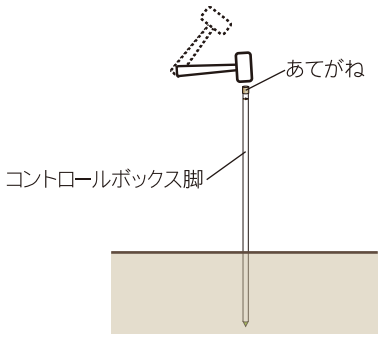
①約 1㎡の平らな場所に設置してください
　凹凸がある場合は平らにならしてください

　また本機の 5m以内では火気の使用を避け、
　農作物や草木など燃えやすいものは除去してください



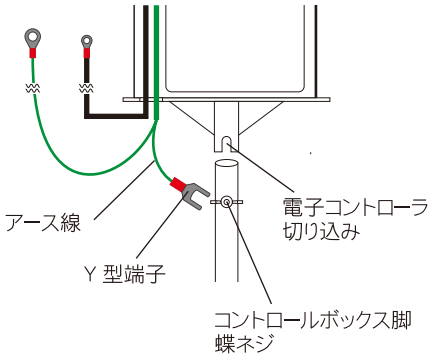
②コントロールボックス脚に付属のあてがねを被せ、地面に打ち込みます
　コントロールボックス脚はアースの役割もあります　しっかりと打ち込んでください

※コントローラは樹木などの物陰にならないように設置してください
　光センサーの感度に影響する場合があります



③電子コントローラの切り込みとアース線の Y 型端子を
　コントロールボックス脚の蝶ネジに挟み込み、しっかりと締め込んでください

※アース線が接続されていないと故障の原因になることがあります

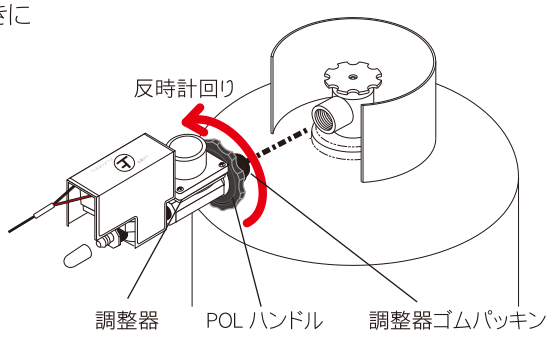


④ガスボンベに調整器を取り付けます　電磁弁カバーの㊤シールが上向きに
　なるようにし、ガスが漏れないようにしっかりと締め付けます
　POL ハンドルは左ネジです　反時計回りに締め付けてください

※電磁弁の上下を逆にすると故障や誤作動の原因になります

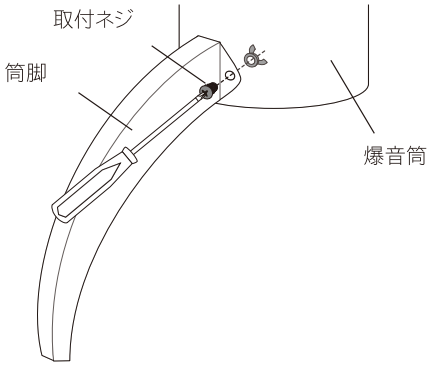
※ガスボンベに取り付ける際は「調整器ゴムパッキン」に
　ひび割れ、キズ、亀裂、へたりなどの損傷や劣化がないことを確認してください
　（ガス漏れ・火災の原因になります）

※「調整器ゴムパッキン」は 1 年に 1 度の交換をおすすめします



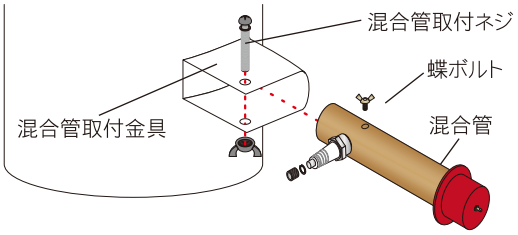
⑤爆音筒に付属の取付ネジで筒脚を取り付けます
ネジの緩みがないようにしっかりと取り付けてください

※爆音筒の排気口は電子コントローラや樹木に向けないようにしてください
火災の原因になります

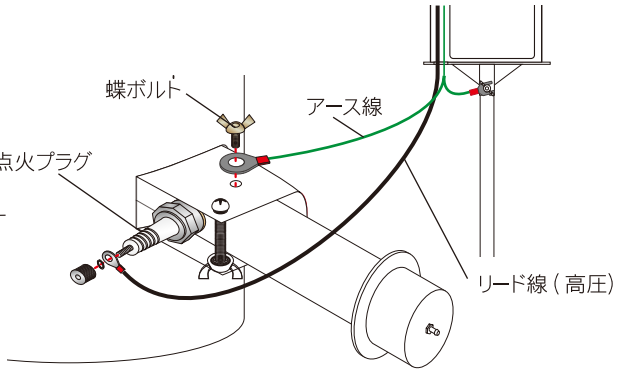


⑥混合管の蝶ボルトを外し、
混合管を爆音筒の混合管取付金具に差し込み、
付属の混合管取付ネジでしっかり固定します

※必ず混合管取付ネジでしっかり固定してください
蝶ボルトでは固定できません
取り付けが不十分だと使用中に振動などで、外れる場合があり、
火災の原因になるおそれがあります

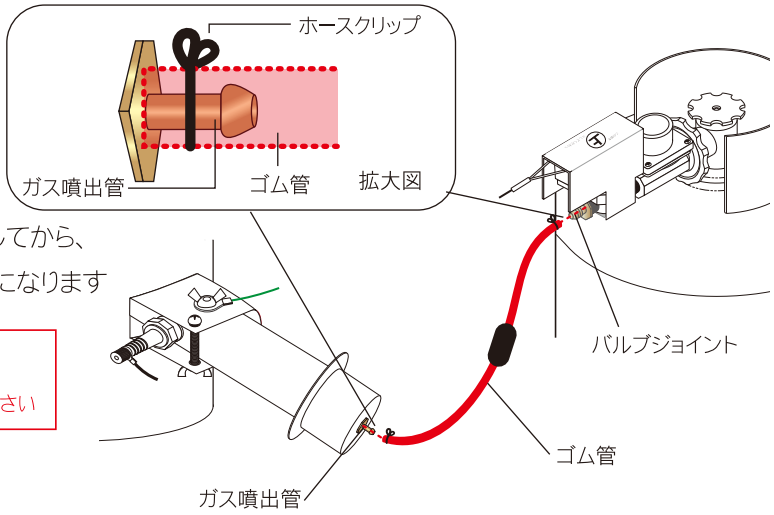


⑦リード線（高圧）〈黒線〉を混合管完備の点火プラグに取り付け、
アース線〈緑細線〉の丸端子を混合管完備の蝶ボルトに取り付けます



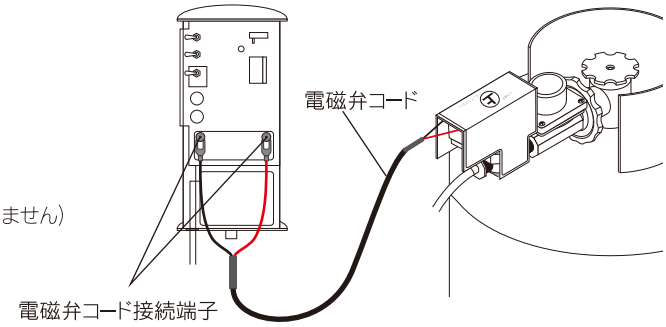
⑧ゴム管を調整器のバルブジョイント、
混合管のガス噴出管にそれぞれ取り付けます
奥までしっかり差し込んでください
この時、予めゴム管の先端にホースクリップを配置してから、
ゴム管を差込むとホースクリップの取り付けが簡単になります

※ゴム管内にゴミや泥などがあるとガス噴出管が詰まって
音が小さくなったり、鳴らないことがあります
取り付けの際はゴム管内に泥やゴミがない事を確かめてください



4 設置と組み立て

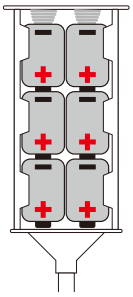
⑨電磁弁コードを電子コントローラの電磁弁コード
接続端子に取り付け、結線ネジを締め込みます
（黒色と赤色の電磁弁コードと電磁弁コード接続端子に+−の極性はありません）



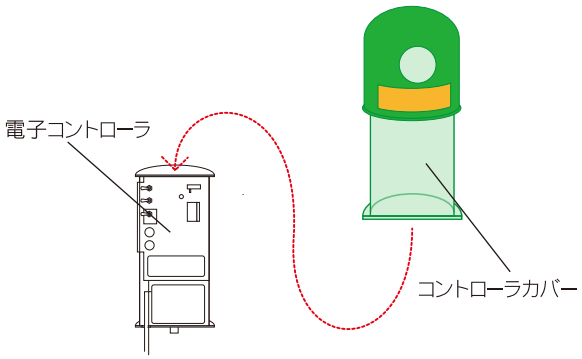
⑩電子コントローラ背面の電池挿入部にアルカリ乾電池単一形を 6 本挿入してください

※乾電池を挿入する時は必ずコントローラの主電源を「切」にしてから行ってください

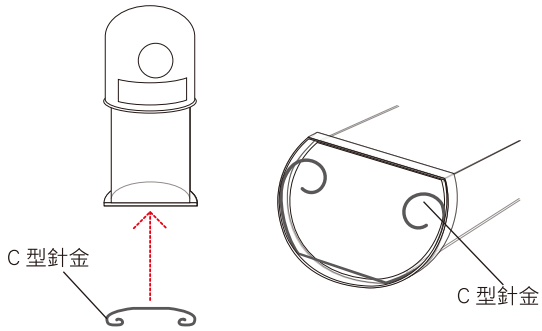
※乾電池の方向を間違えないでください　基板の故障や乾電池の液漏れの原因になります



⑪電子コントローラにコントローラカバーを被せます



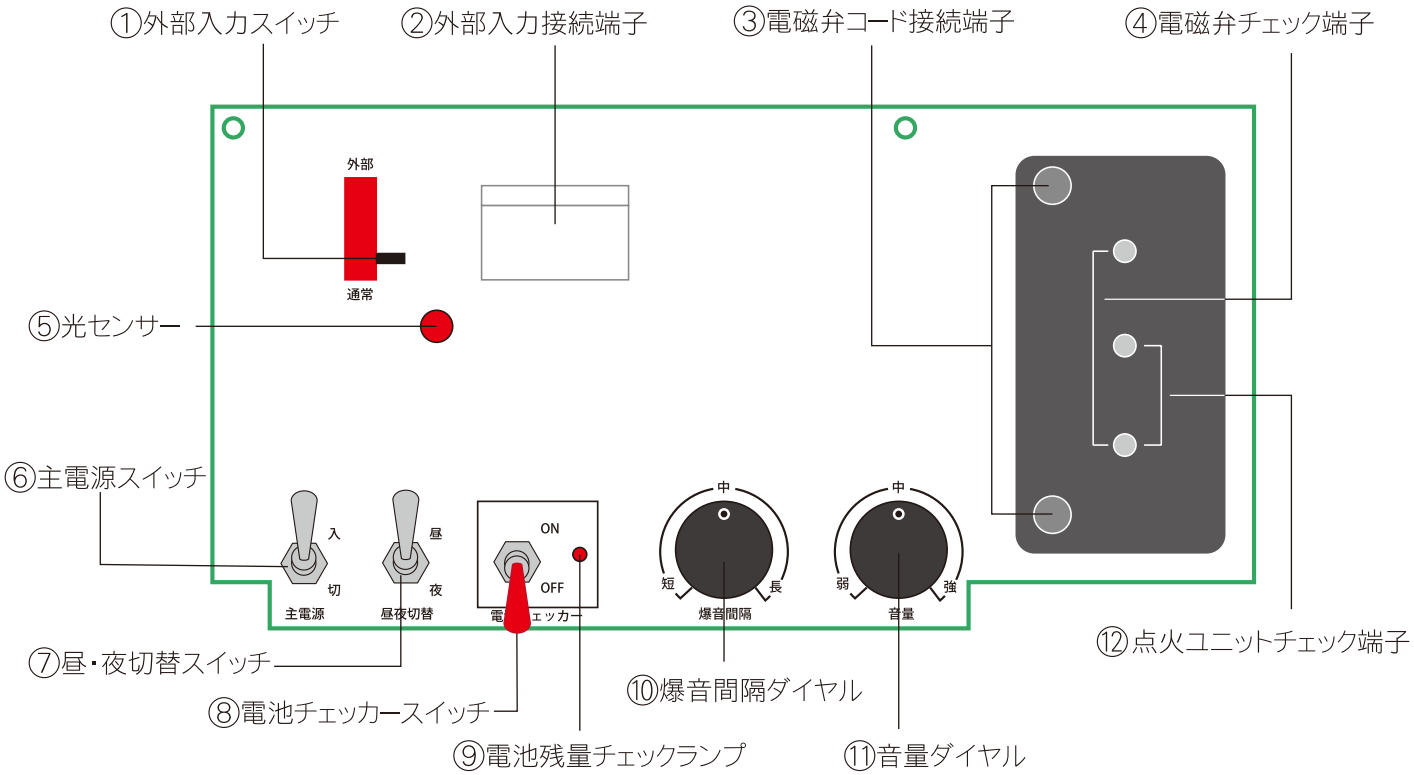
⑫コントローラカバーが外れないように C 型針金で固定します



⑬付近を通る人が見えやすい位置に危険表示板を設置してください

完成です

■ プリント基板（電子コントローラ内）※プリント基板は機種ごとに異なります



①外部入力スイッチ：通常使用の際は「通常」に、オプションを使用の際は「外部」に切り替えます

②外部入力接続端子：オプションを接続します

③電磁弁コード接続端子：電磁弁コードを接続します　※接続する電磁弁コードに+−の極性はありません

④電磁弁チェック端子：電磁弁の動作を確認する際に使います（P14）

⑤光センサー：太陽の光で昼夜を判断します

⑥主電源スイッチ：本体の主電源を入切するスイッチです

⑦昼・夜切替スイッチ：昼モード・夜モードを切り替えるスイッチです

⑧電池チェッカースイッチ：電池残量をチェックします　電池残量が十分であれば、スイッチをONにした際にランプが点灯します
その際、電磁弁接続コード端子にも電気をながします　※主電源スイッチが「切」のときに動作します

⑨電池残量チェックランプ：電池残量が十分であれば電池チェッカースイッチで確認した際に点灯します

⑩爆音間隔ダイヤル：ダイヤルを回して爆音間隔を調整できます　最短 約30秒、最長 約10分間隔です

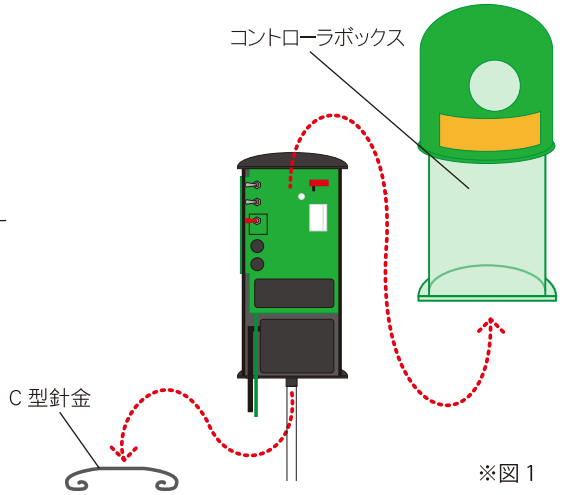
⑪音量ダイヤル：ダイヤルを回して音量を調整できます

⑫点火ユニットチェック端子：点火ユニットの動作を確認する際に使います（P14）

■ 動作開始

①電子コントローラのC型針金、コントローラカバーを順に外します

※必ずガスボンベの元栓を閉じた状態で操作してください



※図 1

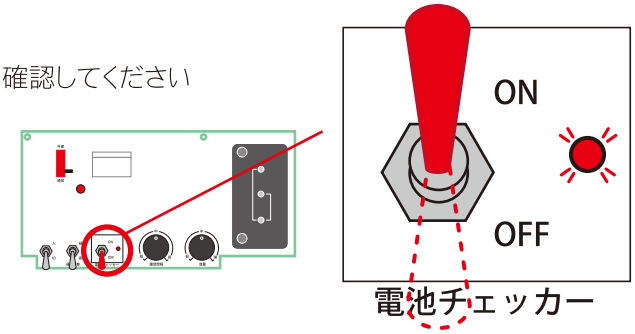
②電池残量をチェックします

電池チェッカースイッチを「ON」にしてランプが点灯することを確認してください

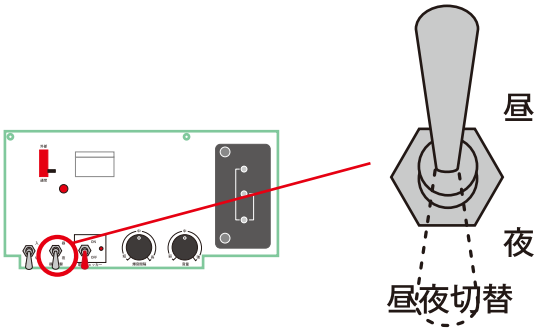
点灯しない場合は新しい電池と交換してください

※主電源スイッチが「切」になっていることを確認してください

※誤作動をふせぐため、電池チェッカーを「ON」にしてから 1 分間は主電源スイッチを「入」にしないでください



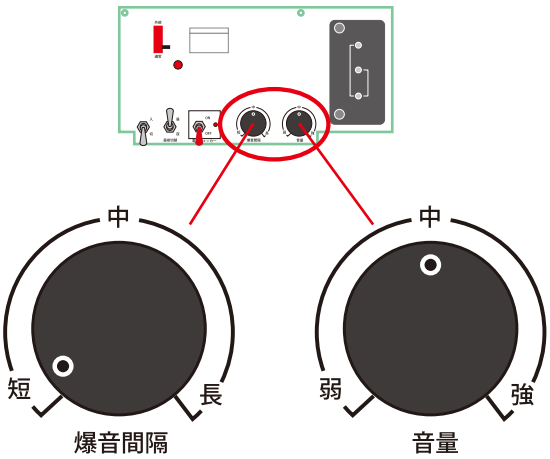
③昼・夜切替スイッチを「昼」もしくは「夜」に設定します



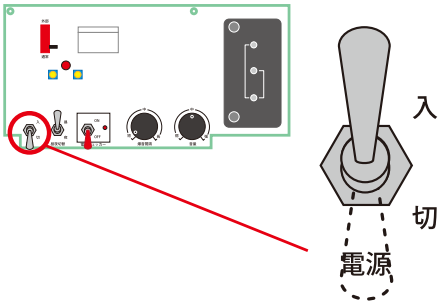
④爆音間隔と音量のテストをします

爆音間隔ダイヤルを「短」に、音量ダイヤルを「中」に設定します

※必ず耳栓をしてください



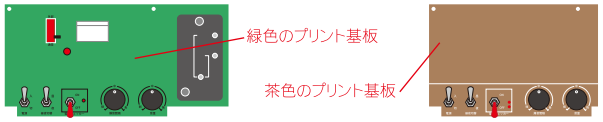
⑤主電源スイッチを「入」にして、ガスボンベの元栓を開き、
すみやかに20m以上離れてください



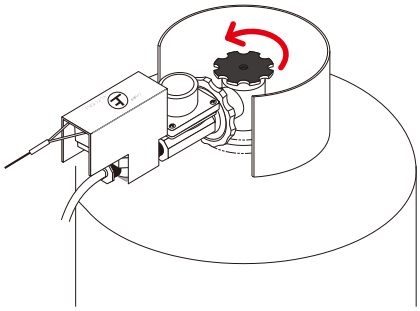
※余分な空気を除去するため開始直後の数回は爆音を発しない場合があります

※爆音筒内にガスが残っている場合、主電源を入れた時に誤着火する場合がありますので、ご注意ください

※ジェットバング〈TJB-5〉、バードキラー〈LPE-5〉は主電源を「入」にしても直後に爆音を発しない設計になっています

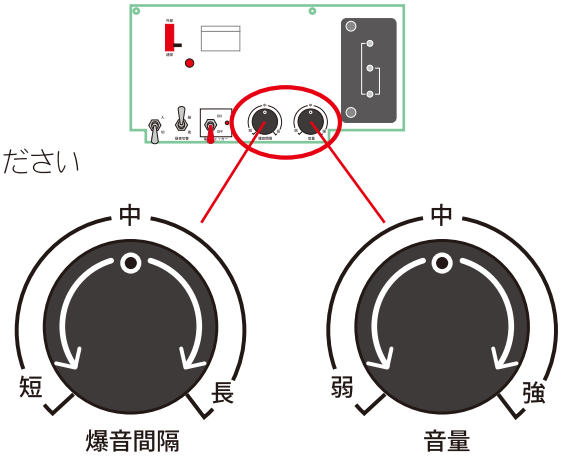


ジェットバング〈TJB-5〉・バードキラー〈LPE-5〉　　バードキラー〈LPE-4〉・〈LPE-3〉

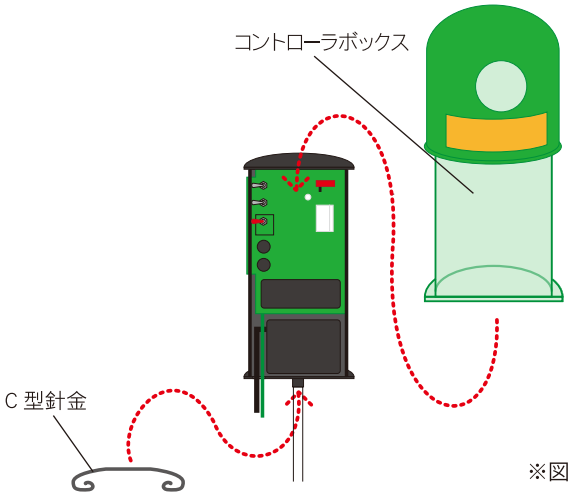


⑥爆音を数回確認した後、任意の爆音間隔・音量に設定してください
爆音間隔は最短（短）約30秒～最長（長）約10分です

※爆音間隔や音量を調節するときは本機が爆音を発した後、
すみやかに本機に近づいてガスボンベの元栓を閉め、
電子コントローラの主電源スイッチを「切」にしてからおこなってください



⑦コントローラカバー、C型針金を取り付けて完成です

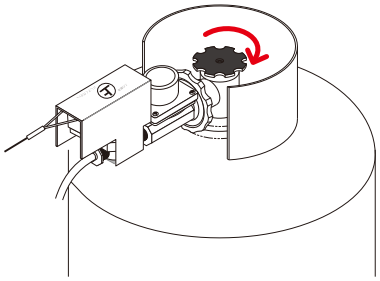


※図 2

6 操作方法・日常点検

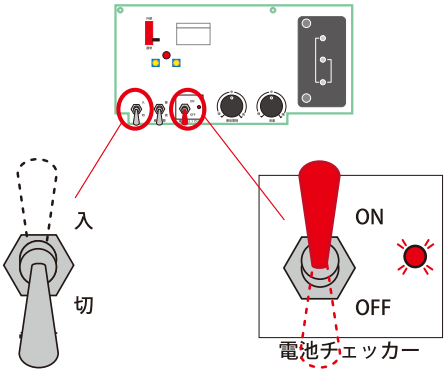
■ 使用中断・停止

①ガスボンベの元栓を締めます



②電子コントローラのC型針金、コントローラカバーを順に外します（P9　図1参照）

③主電源スイッチを「切」にします
電池チェッカースイッチを 2 ～ 3 秒「ON」にして
電磁弁やゴム管に残っているガスを放出します
（このとき、点火プラグは動作しないので爆発することはありません）



④電子コントローラにコントローラカバー、C 型針金を取り付けます（P10　図 2 参照）

■ 日常点検

必ず1日1回は本機を点検して安全の確認をしてください

〇ネジの緩みはないか
〇劣化や破損はないか
〇ガス漏れやガス臭さはないか
〇本機やガスボンベは横転しそうでないか
〇本機の5m以内に燃えるものはないか（草刈りを定期的に行ってください）
〇ガスボンベが直射日光にさらされるなどして高温になっていないか
〇危険表示板が設置されているか

異常がある場合は直ちに使用を停止し、お買い求めの販売店にご相談ください

■ 長期間使用しない場合

長期間使用しない場合は電子コントローラの乾電池を外し、
風雨や直射日光が当たらないところに保管してください

また以下の場所での保管は劣化の促進や電池の液漏れなど、動作不良や故障の原因になります

✕直射日光が当たる、高温になる場所

✕湿気の多い場所

✕ゴミや塵の多い場所

✕農薬や薬品が降りかかる場所

✕扇風機やエアコン、室外機などのモーターの近くやオゾンの発生が予想される場所
（ゴム類はオゾンなどによって劣化が激しくなります　特に調整器には部品としてゴムを多く使用しています）

長期間保管した後、使用を再開する際はガス漏れや誤動作などがないか十分にご確認ください

■ オプション（別売）

プリント基板の外部入力接続端子に接続！ タイムコントローラー

TT延長　0104030000
【TTC-LT】

○爆音間隔を長くし、鳥が忘れた頃に
爆音を発生して「慣れ」を防止します

○時間は電子コントローラのつまみで
調節可能（約30分～約400分）

○ガスの燃費向上に貢献

TT不規則　0104020000
【TTC-R】

○爆音間隔をランダム（不規則間隔）
にし、「慣れ」を防止します

対応機種

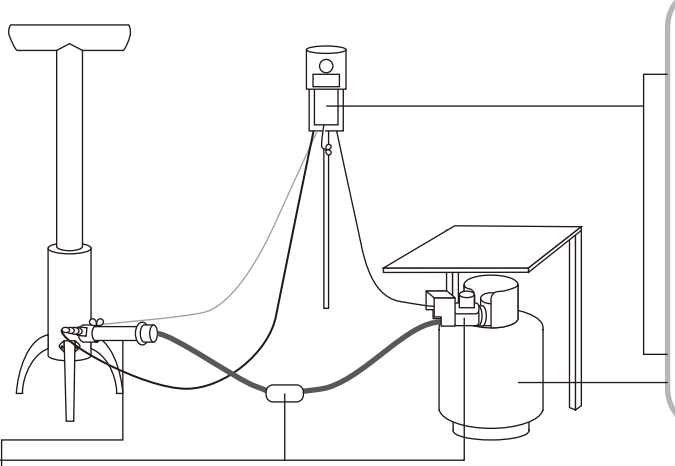
ジェットバング【TJB-5】　バードキラー【LPE-5】
バードパンチャー【TBP-C2】【TBP-P2】【LPE-BP2】【LPE-BPP2】
ロケットバング【TRB-5】【LPE-RB-C5】
ビックラー【TBR-5】　ドンピカ【LPE-H5】
※爆音間隔制御装置・タイガータイマー共通

■ 補修用性能部品※の保有期間

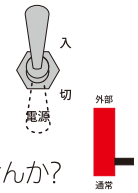
当社の本機補修用性能部品の保有期間は、**製造打ち切り後7年**です

※製品の機能を維持するために必要な部品

8 故障かな?と思ったら



チェックの前に確認を!

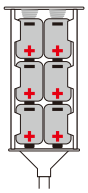


○主電源は「入」になっていますか?

○昼・夜の設定は間違っていませんか?

○外部入力スイッチが外部側になっていませんか?

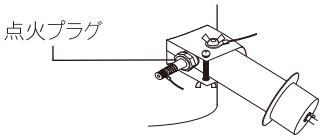
○乾電池の残量はありますか?
→電池残量チェックランプで確認 (P9 参照)



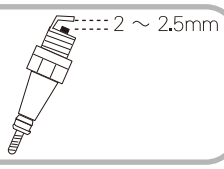
○乾電池は正しい向きにセットされていますか?
→6 本とも同じ向き (上がー、下が+) です

○ガスボンベの残量は十分にありますか?

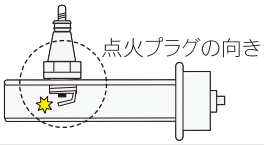
①点火プラグに草などが触れていませんか?
→草などを取り除いてください



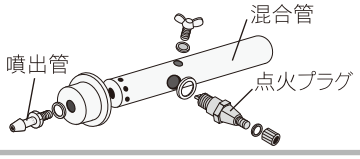
②点火プラグのすき間は 2 ～ 2.5mmになっていますか?
→すき間を調節してください　すき間の目安は 500 円玉の厚みです



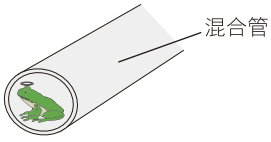
③点火プラグは正しい方向についていますか?
→正しい向きで取り付けてください



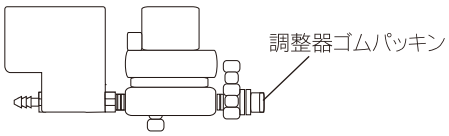
④噴出管にゴミなどが詰まっていませんか?
→細い針金などで取り除いてください



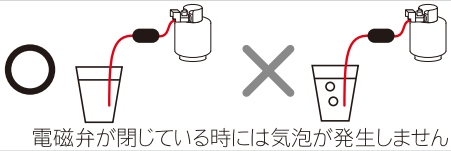
⑤混合管内にカエルや虫などが詰まっていませんか?
→取り除いてください



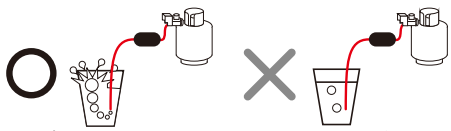
⑥調整器ゴムパッキンが劣化していませんか?
→ガス漏れの原因になり大変危険です
新しいものと交換してください



⑦ガス漏れはしていませんか?
→電磁弁が故障しています
新しいものと交換してください

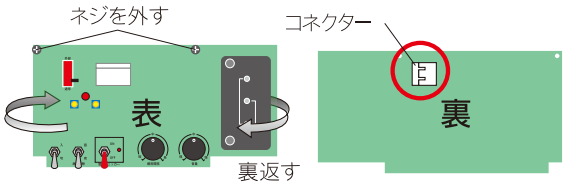

電磁弁が閉じている時には気泡が発生しません

⑧ガスが適正量流れていますか?
→ ガスボンベ残量や元栓の開栓確認をしてください
ゴム管が破損している場合や、
電磁弁が故障している場合は交換してください


コップの水があふれるくらい勢いが良ければ問題なし

⑨プリント基板 裏面の電源コネクターが
外れていませんか?

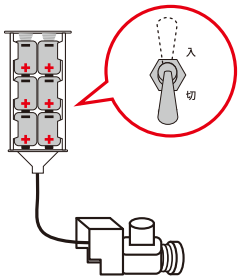
→電源コネクターを接続してください



●電磁弁・点火ユニットの動作検査

動作検査の前に

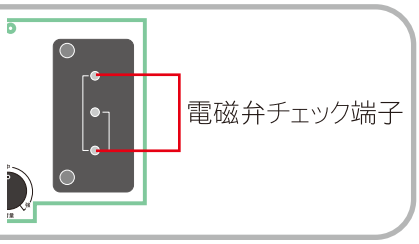
1. ガスボンベの元栓を締めてください
2. 調整器をガスボンベから外します
3. 電磁弁コードを電子コントローラに取り付けます（P7）
4. 主電源を「切」にします
5. 乾電池をセットします（電池残量を確認してください）



電磁弁の検査をします

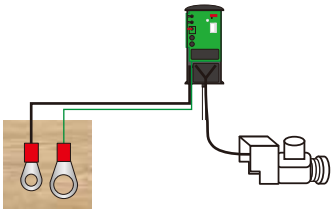
①電磁弁チェック端子の両端を針金などでショートさせます

→電磁弁から「カッチ」という開閉音がしたら正常です



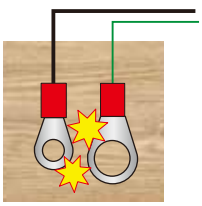
点火ユニットの検査をします

①高圧コードとアース線の丸端子を 1mm程度離して
木台などの絶縁物の上にセットします



②点火ユニットチェック端子の両端を
針金などでショートさせます

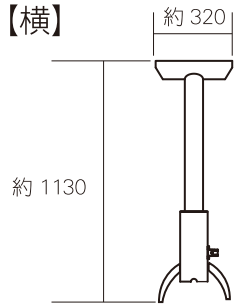
→高圧コードとアース線の丸端子間に火花が飛び、
「パチパチ」と音がすれば正常です



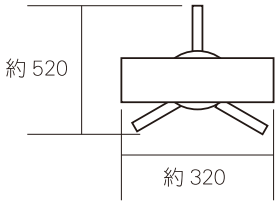
仕様

商品名	ジェットバング
商品コード	0101015000
型式	TJB-5
電源	アルカリ乾電池単一形 6 本
重量	約 6kg
運転モード	昼 / 夜
運転間隔	約 30 秒～約 10 分
ガス使用期間（目安）	約 120 日　※10kgボンベ使用で音量「中」、爆音間隔「中」にした場合の使用期間です 目安なので使用状況により変動します
電池使用期間（目安）	約 60 日　※三菱アルカリ乾電池単一形使用で音量「中」、爆音間隔「中」にした場合の使用期間です 目安なので使用状況により変動します
大きさ	（幅）約320×（高さ）約1130×（奥行き）約520mm

【横】



【上】



(mm)

タイガー株式会社

ホームページ
www.tiger-mfg.co.jp

本 社／大阪支店　〒565-0822
大阪府吹田市山田市場10番1号
TEL: 06-6878-5421　FAX:06-6875-5677
E-mail: info@tiger-mfg.co.jp

東京支店　〒262-0023
千葉市花見川区検見川町5丁目2348番地3-A
TEL: 043-298-4888　FAX:043-298-4889
E-mail: animal@tiger-mfg.co.jp

九州支店　〒862-0969
熊本市南区良町2丁目8番12号
TEL: 096-378-0852　FAX:096-378-0906
E-mail: kyuusyuu@tiger-mfg.co.jp

東北営業所　〒984-0030
宮城県仙台市若林区荒井東1-8-4東D-1
TEL: 022-349-5421　FAX:043-298-4889
(東京支店)

甲信越営業所　〒381-0045
長野県長野市桐原1丁目7番地1号101
TEL: 026-239-7591　FAX:043-298-4889
(東京支店)

奈良営業所　〒639-1123
奈良県大和郡山市筒井町463-1-10
TEL: 0743-23-1070　FAX:0743-23-1071

●仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください